

高等学校

令和5年度

教育研究員研究報告書

地理歴史

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
	〈1 実践事例Ⅰ「地理総合」指導事例 第1学年〉	5
	〈2 実践事例Ⅱ「歴史総合」指導事例 第1学年〉	8
	〈3 実践事例Ⅲ「日本史A」指導事例 第3学年〉	11
VI	研究の成果	14
VII	今後の課題	15

研究主題	ICTの利活用により、史資料を活用・選択し、 学習内容と現代的な諸課題を関連付けて探究する 学習活動と学習評価の工夫・改善
------	--

I 研究主題設定の理由

今年度の教育研究員の全体テーマは「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」であり、高等学校部会テーマは「全ての生徒の資質・能力を育成する、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善と学習評価の充実」である。

これを踏まえて、高等学校学習指導要領地理歴史（平成30年3月）及び先行研究を基に、研究主題を検討した。

主題設定に当たり、地理歴史科において育成する資質・能力を次のように整理した。

- 1 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、現代の諸課題について理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能
- 2 地理や歴史、現代の諸課題に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力や、考察、構想したことを説明する力、それらを基に議論する力
- 3 よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さや、人間としての在り方生き方についての自覚

また、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（中央教育審議会 平成28年12月21日）において、資料から読み取った情報を基にして、社会的事象の特色や意味などについて比較したり、関連付けたり、多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であることが指摘されていることや、教育研究員の授業実践から現状を次のように捉えることとした。

- 【現状】**
- 1 複数の史資料から必要とする情報を自ら選択・判断し、活用する力、課題を見いだす力の育成が十分ではない。
 - 2 現代的な諸課題について、学習内容を踏まえ、自分なりの意見を持ち、解決策を構想する力の育成が十分ではない。
 - 3 問いを立てたり課題を設定したりする取組や主体的に学ぶ姿勢を学習評価に反映させることが十分ではない。

これらの現状を踏まえて、次のとおり課題をまとめた。

- 【課題】**
- 1 複数の史資料から必要な情報を、生徒自身が取捨選択し、他者と意見を共有・比較し、問いを立てる学習活動を取り入れる必要がある。
 - 2 現代的な諸課題のポイントを、生徒自身が把握し、興味・関心に応じて、学びの手法を選択して、具体的な課題を設定する学習活動を取り入れる必要がある。
 - 3 問いを立てたり課題を設定したりする取組を通して生み出された意見等を、速やかに見取り、主体的に学ぶ姿勢を適切に評価する方法を取り入れる必要がある。

本部会では、上述の現状と課題を解決するため、先行研究における様々な指導方法に加え、一人1台端末等のICTの利活用に着目した。ICTの利活用により、学び方については、

個別最適化された学びや生徒同士の主体的・対話的な学びなどが促進されること、教え方については、学習ログを活用したエビデンスベースの指導を行ったり、ビッグデータの活用・分析により授業改善を図ったりする指導ができるようになる。また、働き方については、校務の効率化が図られることにより、生徒と向き合う時間が確保され、よりきめ細かく指導することができるようになる。

以上のことから、本部会では、「ICTの利活用により、史資料を活用・選択し、学習内容と現代的な諸課題を関連付けて探究する学習活動と学習評価の工夫・改善」を研究主題と設定した。

II 研究の視点

本部会の研究主題について、下記のとおり、三つの視点で整理した。

1 史資料を活用する力、課題を見いだす力の育成

高等学校学習指導要領地理歴史（平成30年3月）では、社会的な見方・考え方を働かせて主体的・対話的で深い学びを実現するためには、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動が不可欠であると示されている。そのため、本研究では、地理歴史における様々な課題や現代的な諸課題について、ICTを適切に利活用し、複数の史資料から必要な情報を生徒自身が取捨選択し、問いを立てる学習活動の充実を図ることとした。

2 現代的な諸課題について、自分なりの意見を持ち、解決策を構想する力の育成

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会 令和3年1月26日）（以下、「答申」と表記。）では、「個別最適な学び」について、「指導の個別化」と「学習の個性化」の必要性が示されている。

これらを踏まえ、本研究では、生徒が自ら学習を進めているという意識を持ち、主体的に現代的な諸課題について向き合うことができるようにするため、生徒自らがICTを適切に利活用し、学びの手法を選択し、具体的な課題を設定し、解決策を構想する学習活動の充実を図ることとした。

3 生徒の取組や主体的に学ぶ姿勢の評価を目的としたICTの利活用

「答申」では、これまで以上に個々の興味・関心等を踏まえて、きめ細かく指導・支援することや、生徒が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促す必要性が示されている。そのため、本研究では、ICTを適切に利活用して、生徒の学習状況を効率的に把握し、教員の適正な評価や生徒の学びの調整を推進することとした。

Ⅲ 研究の仮説

本部会の研究主題について、現状と課題を踏まえて、三つの仮説を設定した。

- 仮説1 ICTを活用して、複数の史資料から得た情報を効果的に取捨選択したり、瞬時に他者と意見を共有したりして、問いを立てる学習活動を適切に取り入れることにより、生徒は史資料を活用する力、課題を見いだす力を身に付けることができる。
- 仮説2 ICTを活用して、蓄積された学習データを基に、教材やその扱い方を選択した上で、学習内容と現代的な諸課題を関連付け、課題を設定する学習活動を適切に取り入れることにより、生徒は自分の意見を持ち、解決策を構想する力を身に付けることができる。
- 仮説3 ICTを活用して、生徒同士で効率的に意見を共有する学習活動を適切に取り入れることにより、生徒は速やかに他の生徒の意見等を見取り学習改善に生かし、教員は学習ログを踏まえた学習評価を充実させることができる。

Ⅳ 研究の方法

本研究の仮説を検証するために、次のとおり学習活動を設定し、授業改善と学習評価の充実を図り、成果と課題をまとめる。

1 具体的方策

- (1) ICTを活用して、複数の史資料から情報を取捨選択し、その情報を選択した根拠や理由、さらに、他者と意見共有する前後の意見の変容を見取ることができるワークシートを作成する。
- (2) 現代的な諸課題と関連付けた史資料を生徒に提示し、生徒の学習実態や興味・関心に応じて教材やその扱い方を選択できるようにし、自分の意見を持ち、解決策を構想する場面を設定する。
- (3) ICTを活用して、授業中に意見を入力させ、速やかに共有する場面を設定するとともに、授業後に学習ログを学習評価のための素材とする。

2 検証方法

仮説を検証するため、具体的方策を踏まえ、単元指導の前後で、生徒がどのように変容したか分析を行う。

- (1) ワークシートや統合型学習支援サービス等の記載内容を分析し、情報の取捨選択や自他の意見を共有・比較して学習改善に生かすことができたかどうか変容を見取る。
- (2) 振り返りシートの記載内容や自己評価を分析し、選択した手法が、自分なりの意見を持ち、解決策を構想する上で有効であったかどうか変容を見取る。
- (3) ワークシート等の記載内容を分析し、学習ログを活用して学習改善に生かすことができたかどうか変容を見取る。

V 研究の内容

共通テーマ「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」

高等学校部会テーマ

「全ての生徒の資質・能力を育成する、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業改善と学習評価の充実」

地理歴史科において育成する「資質・能力」

- 1 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、現代の諸課題について理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能
- 2 地理や歴史、現代の諸課題に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力や、考察、構想したことを説明する力、それらを基に議論する力
- 3 よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さや、人間としての在り方生き方についての自覚

高等学校部会テーマにおける現状と課題

【現状】

- 1 複数の史資料から必要となる情報自ら選択・判断し、活用する力、課題を見いだす力の育成が十分ではない。
- 2 現代的な諸課題について、学習内容と関連付けて、自分なりの意見を持ち、解決策を構想する力の育成が十分ではない。
- 3 問いを立てたり課題を設定したりする取組や主体的に学ぶ姿勢を学習評価に反映させることが十分ではない。

【課題】

- 1 複数の史資料から必要な情報を、生徒自身が取捨選択し、他者と意見を共有し、問いを立てる学習活動を取り入れる必要がある。
- 2 現代的な諸課題のポイントを、生徒自身が把握し、興味・関心に応じて、学びの手法を選択して、具体的な課題を設定する学習活動を取り入れる必要がある。
- 3 問いを立てたり課題を設定したりする取組を通して生み出された意見等を、速やかに見取り、主体的に学ぶ姿勢を適切に評価する方法を取り入れる必要がある。

高等学校地理歴史部会研究主題

ICTの活用により、史資料を活用・選択し、学習内容と現代的な諸課題を関連付けて探究する学習活動と学習評価の工夫・改善

【仮説】

- 1 ICTを活用して、複数の史資料から得た情報を効果的に取捨選択したり、瞬時に他者と意見を共有したりして、問いを立てる学習活動を適切に取り入れることにより、生徒は史資料を活用する力、課題を見いだす力を身に付けることができる。
- 2 ICTを活用して、蓄積された学習データを基に、教材やその扱い方を選択した上で、学習内容と現代的な諸課題を関連付け、課題を設定する学習活動を適切に取り入れることにより、生徒は自分の意見を持ち、解決策を構想する力を身に付けることができる。
- 3 ICTを活用して、生徒同士で効率的に意見を共有する学習活動を適切に取り入れることにより、生徒は速やかに他の生徒の意見等を見取り学習改善に生かし、教員は学習ログを踏まえた学習評価を充実させることができる。

【研究方法】

【具体的方策】

- 1 ICTを活用して、複数の史資料から情報を取捨選択し、その情報を選択した根拠や理由、さらに、他者と意見共有する前後の意見の変容を見取ることができるワークシートを作成する。
- 2 現代的な諸課題と関連付けた史資料を生徒に提示し、生徒の学習実態や興味・関心に応じて教材やその扱い方を選択できるようにし、自分の意見を持ち、解決策を構想する場面を設定する。
- 3 ICTを活用して、授業中に意見を入力させ、速やかに共有する場面を設定するとともに、授業後に学習ログを学習評価のための素材とする。

【検証方法】

- 1 ワークシートや統合型学習支援サービス等の記載内容を分析し、情報の取捨選択や自他の意見を共有・比較して学習改善に生かすことができたかどうか変容を見取る。
- 2 振り返りシートの記載内容や自己評価を分析し、選択した手法が、自分なりの意見を持ち、解決策を構想する上で有効であったかどうか変容を見取る。
- 3 ワークシート等の記載内容を分析し、学習ログを活用して学習改善に生かすことができたかどうか変容を見取る。

1 実践事例Ⅰ「地理総合」

教科名	地理歴史	科目名	地理総合	学年	第1学年
-----	------	-----	------	----	------

(1) 単元の目標

- ア 各地の生活文化が多様な気候から影響を受けていることを理解し、資料から生活文化と気候に関する情報を適切かつ効果的に調べる技能を身に付けるようにする。
- イ 気候に応じた生活文化と現代的諸課題の相互関係について着目し、現状・要因・解決の方向性等を多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
- ウ 各地の気候と特色ある生活文化への関心をもち、課題意識をもって意欲的に追究しようとする態度を養う。

(2) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 生活文化と気候環境
- イ 使用教材 「地理総合」（東京書籍）「新高等地図」（東京書籍）
「新詳地理資料 COMPLETE」（帝国書院）

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・各地の生活文化が多様な気候から影響を受けていることを理解し、資料から生活文化と気候に関する情報を適切かつ効果的に調べる技能を身に付けている。	・気候に応じた生活文化と現代的諸課題の相互関係について着目し、現状・要因・解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・各地の気候と特色ある生活文化への関心をもち、課題意識をもって意欲的に追究しようとしている。

(4) 単元の指導と評価の計画（10時間扱い）※2時間連続授業

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
【単元を貫く問い】 「多様な気候は、各地の生活文化にどのような影響を与えているのだろうか。」					
第1時 第2時	・多様な気候とその分布について大観し、各地の気温と降水量が異なる理由を考察する。		●		・地形や気候等の自然条件に着目して、各地の気温と降水量が異なる理由について、多面的・多角的に考察している。 【ワークシート】(イ)
第3時 第4時	・雨温図から熱帯の気候とそこに暮らす人々の生活の工夫を理解する。	●			・熱帯の気候とそこに暮らす人々の生活が、自然環境や様々な社会環境の影響を受けて成立していることを理解している。【ワークシート】(ア)
第5時 第6時 (本時)	・アラル海の縮小に関する資料から、乾燥帯の人々の生活と灌漑農業がもたらす問題点を整理し、解決策について構想する。			●	・乾燥帯の人々の生活と灌漑農業がもたらす問題点についての関心を高め、学んだことを実生活に適用しようとしたり、これからの学習に意欲的に取り組もうとしたりしている。【ワークシート】(ウ)

第7時 第8時	<ul style="list-style-type: none"> 大陸の東岸と西岸の温帯の気候区分に着目し、温帯の季節を再定義する。 寒冷な地域の夏冬の差に適応した生活の工夫について理解する。 	●	●	<ul style="list-style-type: none"> 地形や気候等の自然条件に着目して、温帯の季節について、多面的・多角的に考察したことを踏まえ、再定義している。【ワークシート】(イ) 寒帯の気候とそこに暮らす人々の生活が、自然環境や様々な社会環境の影響を受けて成立していることを理解している。【ワークシート】(ア)
第9時 第10時	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを基に、【単元を貫く問い】について振り返り、ワークシートに自分の考えをまとめ、統合型学習支援サービスを活用して発表する。 		●	<ul style="list-style-type: none"> 各地の気候と特色ある生活文化についての関心を高め、課題意識をもって意欲的に追究しようとしたり、学んだことを実生活に適用しようとしたりしている。【ワークシート】(ウ)

(5) 本時（全10時間中の6時間目）

ア 本時の目標

- (ア) 乾燥帯の気候の特徴とそこに暮らす人々の生活の工夫について理解するとともに、資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (イ) 乾燥帯における灌漑農業の影響について、多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
- (ウ) 乾燥帯の人々の生活と灌漑農業がもたらす問題について関心をもち、課題意識をもって意欲的に追究しようとする態度を養う。

イ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
5分	<p>【本時の問い】 「降水量が少なく植生が限定された乾燥帯において、どのような生活上の工夫が見られるか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 乾燥帯の気候的特色、生活の様子、灌漑農業の問題点について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート等を用いて、これまでの自分自身の思考の変容を振り返らせる。 	
25分	<ul style="list-style-type: none"> アラル海を取り巻く問題の解決に必要な取組について自身の考えを記入し、グループで共有する。 アラル海の縮小に関連する問題を、複数の立場から考え、協議した内容を統合型学習支援サービス上のプレゼンテーションソフトに入力し、他のグループと内容を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時に学習した乾燥帯の概要を踏まえて、現代的な灌漑農業の問題点を考え、まとめさせ、グループで共有させる。 統合型学習支援サービスを活用し、入力された他の生徒の文章を確認させ、問題に対する自分自身の考えを深めたり、比較したりするよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> グループでの協議内容を踏まえ、課題を意欲的に追究しようとする。【ワークシート】(ウ)
15分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問い「降水量が少なく植生が限定された乾燥帯において、どのような生活上の工夫が見られるか。」への答えを、「本時のまとめ」として記入し、次の学習への見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の冒頭で提示した問いについて授業内容を踏まえてまとめ、統合型学習支援サービスに入力させる。記述する際に、他のグループ、他クラスの協議結果、学習ログも参照するよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の問いと他の生徒との議論を通して、自然環境の特色について、関心を高めている。【ワークシート】(ウ)

(6) 本時の振り返り

ア 仮説1に関する分析

仮説1に関しては、複数の史資料から情報を取捨選択させ、他者との意見共有による理

解の変容を見取るワークシートを作成し、記述の変化を分析した。

「複数の史資料から情報を得て、他の生徒の意見と比較したり参考にしたりすることができましたか。」			
思う	やや思う	あまり思わない	思わない
63%	33%	4%	0%

回答した生徒のほとんどが、「やや思う」以上の肯定的な回答をした。下記の生徒Aの回答に代表されるように、複数の史資料の比較や他者との意見共有などを通じた学習活動により、乾燥帯の生活の様子への理解を深めていることが分かる。

生徒Aの記述の変容（乾燥帯の特徴について）	
授業の冒頭における記述	・植物を育てるオアシス
本時のまとめにおける記述	・乾燥帯は無樹林気候のため、地表の水が少なく、水を地下に流して農業をしている。また、気温が高いため人々は暮らしやすいように服装や住居にこだわっている。

イ 仮説2に関する分析

仮説2に関しては、他のグループ、他クラスともデータを共有できる状態で統合型学習支援サービスのプレゼンテーションソフトに協議結果を入力させた。下表の振り返りシートにおける質問から、史資料や他グループの記述を選択して参照する中で、学習を自己調整し、意識的に解決策の構築に取り組んだ様子が分かる。

「学習した内容を踏まえて、現代につながる様々な問題や、課題について、考えることができましたか。」			
思う	やや思う	あまり思わない	思わない
66%	32%	2%	0%

また、下記の生徒B～Dの回答に代表されるように、本研究の手法を通して、現代的諸課題に対する興味・関心や学習意欲が高まったことが分かる。

生徒B	・綿花の生産量を減らし、より水の使用量の少ない他の作物の生産量を増やすべき。
生徒C	・現状ではアムダリア川とシルダリア川の水が畑に使われているため、アラル海に水がない。そこで、話し合いにより、川の水の使用割合を決め、畑に影響がない範囲で少しずつ水を足し、塩分濃度を下げることが有効だと考える。
生徒D	・砂嵐対策にマスク等を普及させる。農業廃水を飲用できる程度に処理して、川に流す。近代的医学を学ぶ施設を作り、医療従事者を増やすことが有効だと考える。

ウ 仮説3に関する分析

仮説3に関しては、統合型学習支援サービスを活用して、授業中に速やかに意見を共有する場面を設定し、他者の意見を見ることで、学習しやすくなったかどうかという観点でアンケートを実施し、結果を分析した。

「統合型学習支援サービスを使うことで、自分の意見を表現しやすくなりましたか。」			
思う	やや思う	あまり思わない	思わない
57%	37%	4%	2%

94%の生徒が、「やや思う」以上の肯定的な回答をした。また、下記の生徒Eの回答に代表されるように、本研究の手法を通して、ICTの利活用により、学習効果が上がったことが分かる。

また、教員にとって、学習ログの蓄積は学習評価を適切に実施する上で役立つとともに、生徒にとって、他者の学習ログの活用による足りない視点の補充を行うことができるなどの学習改善に生かすことができた。

生徒Eの記述	
・他の生徒の意見が文章化されているので、比較する際にとっても便利だった。文章で読むことで、何が共通しているのか、何が違うのか、はっきり分かるので記録しやすかった。	

2 実践事例Ⅱ「歴史総合」

教科名	地理歴史	科目名	歴史総合	学年	第1学年
-----	------	-----	------	----	------

(1) 単元の目標

- ア 欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- イ 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
- ウ よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

(2) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 国民国家の形成
- イ 使用教材 「歴史総合 近代から現代へ」（山川出版社）
「ダイアログ歴史総合」（第一学習社）

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解し、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。

(4) 単元の指導と評価の計画（8時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
【単元を貫く問い】 「近現代における国民国家の形成過程と現代の諸課題にはどのような関係があるのだろうか。」					
第1時	・産業革命の進行によって資本主義社会が成立したことを理解する。	●			・産業革命の推移や、世界に与えた影響について理解している。【ワークシート】(ア)
第2時	・アメリカ独立革命の流れを理解し、「独立宣言」について考察する。		●		・独立宣言の歴史的意義について考察し内容を整理して表現している。【ワークシート】(イ)
第3時	・フランス革命について理解し、「人権宣言」について考察する。		●		・人権宣言の歴史的意義について考察し内容を整理して表現している。【ワークシート】(イ)
第4時	・ナポレオンによって「革命の輸出」がなされたことを考察する。		●		・ナポレオン戦争の推移や、世界に与えた影響について表現している。【ワークシート】(イ)

第5時	・ウィーン体制が成立する一方で、自由主義やナショナリズムが台頭し、やがてウィーン体制の崩壊につながったことを理解する。	●		・ウィーン体制の特徴について理解するとともに自由主義やナショナリズムが台頭した背景について理解している。 【ワークシート】(ア)	
第6時	・19世紀後半におけるヨーロッパ各国の状況を理解し、ヨーロッパ世界の再編過程について考察する。		●	・ヨーロッパ各国の政治状況について理解し、全体を俯瞰して整理し、表現している。【ワークシート】(イ)	
第7時	・現代における国民国家の課題について問いを設定し、自ら学ぶ。			●	・主体的に問いを設定し、積極的に学習に向き合っている。【振り返りシート】(ウ)
第8時 (本時)	・学習したことを基に、【単元を貫く問い】について振り返り、ワークシートに自分の考えをまとめ、統合型学習支援サービスを活用して発表する。			●	・国民国家の形成過程を踏まえて、よりよい社会の実現を視野に、課題意識をもって意欲的に追究しようとしたり、学んだことを実生活に適用しようとしたりしている。【ワークシート】(ウ)

(5) 本時（全8時間中の8時間目）

ア 本時の目標

- (ア) 国民国家の形成過程と現代の諸課題との関係性について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (イ) 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
- (ウ) 国民国家の形成過程を踏まえて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

イ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
5分	【本時の問い】 「現代における国民国家の課題を踏まえて、どのような解決策を立てることができるか。」		
	・学習を振り返り、【本時の問い】について確認し、現代における国民国家の課題を確認する。	・ワークシート等を用いて、これまでの自分自身の思考の変容を振り返らせる。	
25分	・他者がまとめたプリントを読み、意見交換を行う。 ・グループ活動を通して、スライドとワークシートを完成させ、グループごとに発表する。	・前時に各自が調べてまとめたワークシートを配布し、他者の考えを読ませる。 ・発表するグループのスライドを表示し、全員が内容を把握できるよう努める。	・自分と他者の意見を比較しながら、解決策を立てようとしている。 【ワークシート】(ウ)
15分	・【本時の問い】を通して考えたことを基に、【単元を貫く問い】について振り返り、ワークシートに自分の考えをまとめ、統合型学習支援サービスを活用して発表する。	・統合型学習支援サービスを活用し、入力された他の生徒の文章を確認させ、問題に対する自分自身の考えを深めたり、比較したりするよう助言する。	・よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。【ワークシート】(ウ)

(6) 本時の振り返り

ア 仮説1に関する分析

仮説1については、「複数の史資料から情報を得て、自分の意見と他の生徒の意見と比較したり参考にしたりすることができたか」について質問を実施し、分析した。

「複数の史資料から情報を得て、他の生徒の意見と比較したり参考にしたりすることができましたか。」			
思う	やや思う	あまり思わない	思わない
79%	21%	0%	0%

回答した生徒の全てが、「やや思う」以上の肯定的な回答をした。

イ 仮説2に関する分析

仮説2については、「学習した内容を踏まえて、現代につながる様々な問題や、課題について、考えることができたか」について質問を実施し、分析した。

「学習した内容を踏まえて、現代につながる様々な問題や課題について考えることができましたか。」			
思う	やや思う	あまり思わない	思わない
79%	21%	0%	0%

回答した全ての生徒が、「やや思う」以上の肯定的な回答をした。また、下記の生徒Fの回答に代表されるように、本研究の手法を通して、現代的諸課題に対する興味・関心や学習意欲が高まったことが分かる。

生徒Fの記述	
<ul style="list-style-type: none"> ・今回の学習を通して、どの現代的諸課題にも、歴史上の政治的問題が関連していることが分かった。今回グループワークでテーマに選択した黒人差別や人種差別の問題を他人事ではなく、自分事として捉えて考えていきたいと思った。 	

ウ 仮説3に関する分析

仮説3については、総合型学習支援サービス等を使うことで、自分の意見を表現しやすくなったか、統合型学習支援サービス等を使い、速やかに他の生徒の意見を見ることで、学習しやすくなったかどうかという観点で質問を実施し、分析した。

「統合型学習支援サービスを使うことで、自分の意見を表現しやすくなりましたか。」			
思う	やや思う	あまり思わない	思わない
72%	25%	3%	0%

回答した 99%の生徒が、「やや思う」以上の肯定的な回答をした。また、下記の生徒Gの回答に代表されるように、本研究の手法を通して、ICTの利活用により、学習効果が上がったことが分かる。

また、教員にとって、学習ログの蓄積は学習評価を適切に実施する上で役立つとともに、生徒の学習状況を的確に把握し、指導改善に結び付け、指導と評価の一体化を推進する上で有効であった。

生徒Gの記述	
<ul style="list-style-type: none"> ・口頭の発表では聞き逃してしまうことがあるが、総合型学習支援サービスを活用したことで、その心配がなくなり、自分の考えをもっと深めることができた。 	

3 実践事例Ⅲ「日本史A」

教科名	地理歴史	科目名	日本史A	学年	第3学年
-----	------	-----	------	----	------

(1) 単元の目標

- ア 大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がり理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- イ 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
- ウ 国際秩序の変化や大衆化について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

(2) 単元名、使用教材（教科書、副教材）

- ア 単元名 第一次世界大戦後の近代産業の発展と国民生活の変化
- イ 使用教材 「高等学校 改訂版日本史A 人・くらし・未来」（第一学習社）

(3) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解し、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。	・国際秩序の変化や大衆化について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。

(4) 単元の指導と評価の計画（6時間扱い）

時間	学習活動	評価の観点			評価規準 (評価方法など)
		ア	イ	ウ	
【単元を貫く問い】 「20世紀初頭の政治的・経済的・社会的諸事象は、産業と国民生活をどのように変化させたのか。」					
第1時	・明治期の産業革命や大戦景気を受け変化した産業構造の様相、及び、その変化がもたらす影響について追究する。			●	・既習事項の明治期の産業革命の特色や統計資料を基に、産業構造の変化をつかみ、その変化が国民生活にどのような影響をもたらすか仮説を立てる。【ワークシート】(ウ)
第2時	・大戦末期の経済的動揺や思想的動向を読み取り、大戦後に成立した政党内閣下での諸政策の概要を理解する。	●			・各種統計及び米騒動関係資料、民本主義関係資料から経済的動揺や思想動向の変化が生じたことを読み取る。【ワークシート】(ア)

第3時 (本時)	・大正期に生じた女性の新しい生き方や地位向上運動の特色、その登場の社会的・経済的背景を考察し、表現する。	●	・大正期の史資料から職業婦人の特色を読み取り、既習事項を基に、女性の働き方の変化や地位向上運動が起こった背景をまとめる。【ワークシート】(イ)
第4時	・大戦後の社会的・経済的变化に伴う都市・農村生活の変容を史資料から読み取り、その中で起こった各社会運動の特色を理解する。	●	・各種宣言及び諸法の条文をもとに、社会主義政党形成とそれに対応する政府の政治的動向の特色をつかむ。【ワークシート】(ア)
第5時	・20世紀初頭の経済発展、思想動向の変化、マスメディアの発達等を背景とし形成された大衆社会がもたらす影響について考察し表現する。	●	・生活様式や文学・学問上の運動の変化等、既習事項と本時で整理した大衆社会の特色を基に、大衆社会がもたらす影響についてまとめる。【ワークシート】(イ)
第6時	・20世紀初頭の産業や国民生活の変化を背景として生じる政治的・経済的・社会的影響について追究する。	●	・20世紀初頭の経済構造と国民生活の変化による成果と課題を整理し、その後の社会への影響について考え、レポートにまとめる。【振り返りシート】(ウ)

(5) 本時 (全6時間中の3時間目)

ア 本時の目標

- (ア) 女性の地位向上について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (イ) 第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、女性の地位向上について多面的・多角的に考察し、表現する力を養う。
- (ウ) 女性の地位向上までの過程を踏まえて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

イ 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・方法
5分	<p>【本時の問い】 「明治末期から大正期にかけて生じた新しい女性の生き方の特色やその背景は何であろうか。」</p>		
25分	<ul style="list-style-type: none"> ・大正期の雑誌の表紙から、社会の特色を考察する。 ・大正期に新しい考えが登場し、女性観も変化したことを予測する。 ・史資料から「家庭婦人」のイメージをつかむ。 ・「職業婦人」関係史資料カードを任意に選択し、キーワードを読み取る。 ・テキストマイニングで集約された語句を確認し、他の生徒が読み取った内容をワークシートに記述する。 ・自身と他の生徒が読み取ったキーワードをもとに、「職業婦人」を短文で表現する。 ・統合型学習支援システムにより、経済的・社会的変化の特色を確認する。 ・「職業婦人」が登場した背景 	<ul style="list-style-type: none"> ・大正期の雑誌の表紙を投影し、「女性」がキーワードとなることを解説する。 ・前時までに統合型学習支援システムで収集した生徒の大正期のイメージをテキストマイニングで集約し、集約した語句を投影する。 ・「家庭婦人」に関する大正期の雑誌記事を映写し、キーワードをつかませる。 ・一人一人異なる史資料カードを配布する。読み取ったキーワードを、質問フォームに打ち込ませる。 ・統合型学習支援システムのテキストマイニング機能によりキーワードを集約し、投影する。他の生徒が読み取ったキーワードを活用して論述するように促す。 ・生徒が前時までにまとめた大正時代の経済的・社会的変化の特色の一覧表をオンライン上で閲覧させる。 ・机間指導しつつ、「職業婦人」の特色と経済的・社会的変化の特色を相互に関係させる形で論述するように助言する。 ・「婦人参政権獲得期成同盟会宣言書」の一文を 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と他者の意見を比較しながら、問いに正対しようとしている。【ワークシート】(ウ)

	を論述する。	ワークシート上で確認させる。	
15分	・大正期の課題の整理と社会運動について、本時を振り返る。	・次時に大正期の課題の整理と社会運動について取り扱うことを予告する。	・問題点について適切に整理している。 【ワークシート】(イ)

(6) 本時の振り返り

ア 仮説1に関する分析

仮説1については、史資料から読み取ったキーワードを、統合型校務支援システムの質問フォームに入力し、テキストマイニング（以下、「TM」と表記。）により重要語句を抽出し、共有する手法を用いて、史資料の同時読み取り、即時的共有が可能となった。その結果、一人一人異なる史資料の使用、関心・得意分野に応じた史資料の選択も併せて可能となり、「学習の個性化」の一助となった。

また、史資料から読み取ったキーワードや既習事項の他者との共有数について、TM活用ワークと対面式ワークでは、下図のとおり差が見られ、他者の意見を生かした多面的・多角的考察にもつながったと思われる。

テキストマイニング (TM) 活用ワーク	平均9.6ワード (生徒が挙げたキーワードの例) 都市、サービス業、教育、接客、百貨店、資格、会計、第三次産業、タイピスト等
	対面式ワーク
	平均2.2ワード (生徒が挙げたキーワードの例) 第三次産業、事務、百貨店等

イ 仮説2に関する分析

仮説2については、生徒の実態に応じて、史資料の選択、学習ログ及び生徒の得意・不得意分野に応じた史資料の振り分け等の選択を行い、「学習の個性化」「指導の個別化」を図った。大正時代の諸事象と現代的諸課題を結び付けるキーワードの抽出において、共有数の増加が見られた。下表の振り返りシートにおける質問から、史資料や他グループの記述を選択して参照する中で、学習を自己調整し、意識的に解決策の構築に取り組んだ様子が分かる。

「学習した内容を踏まえて、現代につながる様々な問題や、課題について、考えることができましたか。」			
思う	やや思う	あまり思わない	思わない
81%	19%	0%	0%

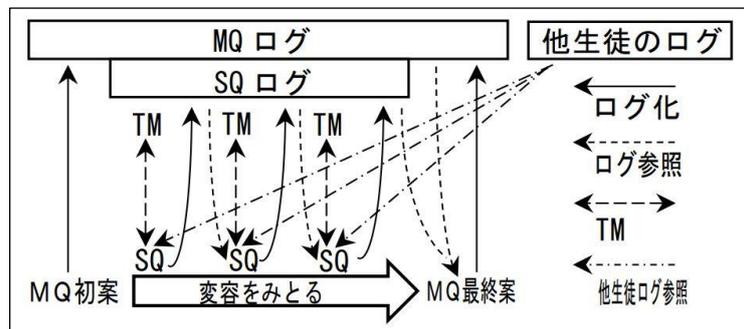
また、下記の生徒Hの回答に代表されるように、本研究の手法を通して、現代的諸課題に対する興味・関心や学習意欲が高まったことが分かる。

生徒Hの記述
・職業婦人は、タイピストといった事務職や百貨店での接客業等、都市型の第三次産業に従事する女性である。その登場の背景は、デモクラシーの風潮の広がりや女性の就学率上昇、大戦景気による産業構造の変化等が挙げられる。女性の社会進出が進んだが、あくまで増加した都市型の職種を補うのが目的で、それが現代まで残されている職場における男女間格差の問題にも残されている。

ウ 仮説3に関する分析

仮説3については、「単元を貫く問い」、つまりメイン・クエスチョン（以下、「MQ」と表記。）と「各時の問い」、つまり、サブ・クエスチョン（以下、「SQ」と表記。）に問いを仕分けし、第1時でMQに対する回答案を統合型学習支援サービス上のアプリに入力するようにした。各時、SQの文章・語句を入力し、学習ログを一覧表化した。学習ログは、

統合型学習支援サービス上で、随時参照することを可能とし、他者の学習ログの活用による意見共有により、自分自身の考察に足りない視点を分析し、学習改善やMQの回答作成に活用した。



学習ログの活用により、短時間で既習事項の各視点の活用が可能となり、他者の学習ログの活用による足りない視点の補充を行う活動の結果、MQに最終的に回答する際、多面的・多角的に考察・表現をすることができた。

また、学習ログの蓄積はポートフォリオとしても活用でき、その変容について、形成的評価や学習調整の評価に用い、指導と評価の一体化を推進することに生かすことができた。

VI 研究の成果

1 史資料を活用する力、課題を見いだす力の育成

三つの検証授業を通して、ワークシートや統合型学習支援サービス等の記載内容を分析した。その結果、ICTを活用して、複数の史資料から読み取った情報の取捨選択を通して課題を見いだせるようになってきていることが、記述の変容により読み取ることができる。

また、グループ協議や統合型学習支援サービス上での意見共有が、既習事項と新しい情報とを結び付けて整理し、多面的・多角的な視点で課題に向き合うことに有効であることが分かった。

2 現代的な諸課題について、自分なりの意見を持ち、解決策を構想する力の育成

三つの検証授業を通して、振り返りシートの記載内容や自己評価を分析した。その結果、ICTを活用して、現代的な諸課題と関連付けた史資料等を活用した学習活動を通して、情報を取捨選択し、対応を協議する場面を設定することで、現代的な諸課題の解決策を構想する力を身に付けることが、記述の変容により読み取ることができる。

また、史資料や他グループの記述を選択して参照する中で学習を自己調整し、意識的に解決策の構築に取り組んだ様子が見られる。

特に、学校図書館や司書と連携し、蔵書の中から設定した課題に関連する書籍を収集して臨んだ授業では、司書等の職員の協力・支援の下で、確かな根拠に基づき、より具体的な解決策を提案した生徒が多かった。今後、ICTの活用とともに、学校図書館や司書と連携した授業実践を蓄積することが有効であると考えられる。

3 生徒の取組や主体的に学ぶ姿勢の評価を目的としたICTの利活用

三つの検証授業を通して、ワークシートの記載内容を分析した。その結果、統合型学習支援サービス等のICTを利活用することで、授業中に意見を速やかに共有することができ、言葉だけでは聞き逃してしまうことも、文章を通して他の生徒の意見に触れることで、自分自身の考えを深めることや比較する上で役立つことを読み取ることができる。

生徒にとって、他者の学習ログの活用は、足りない視点の補充を行い、多面的・多角的に考察・表現をする上で有効であった。

教員にとって、学習ログの蓄積は、ポートフォリオとして活用することができ、生徒の形成的評価や学習調整の評価に用いて指導の個別化に生かすことにつながった。学習ログの蓄積は学習評価を適切に実施する上で役立つとともに、生徒の学習状況を的確に把握し、指導改善に結び付け、指導と評価の一体化を推進する上で有効であった。また、エビデンスベースの指導を行ったり、ビッグデータの活用・分析により授業改善を図ったりする指導ができるようになった。

VII 今後の課題

1 史資料を活用する力、課題を見いだす力の育成

今回の三つの検証授業では、教員があらかじめ用意した複数の史資料を生徒に選択させ、活用させるという形式であったが、今後は生徒が自主的に史資料を収集し、取りまとめることができるような教材を検討する必要がある。

2 現代的な諸課題について、自分なりの意見を持ち、解決策を構想する力の育成

今回の三つの検証授業では、グループ内の意見共有を行うことで、現在につながる諸課題の解決策を見いだすことはできたが、「答申」で指摘されているように、今後は「指導の個別化」を図るため、グループ内で出た諸課題の解決策から個人の意見に反映させる学習活動を検討する必要がある。

3 生徒の取組や主体的に学ぶ姿勢の評価を目的としたICTの利活用

今回の三つの検証授業では、統合型学習支援サービスで生徒の意見を活用する方策を実施し、多面的・多角的に考察した内容を表現することができた。今後は多面的・多角的に考察・表現した内容をどのように評価するか、検討する必要がある。

また、現代的諸課題と学習内容を関連付けた内容を学び、意見の共有を行い、自分自身の考えの変容を振り返らせるという一連の流れの学習内容を単元指導計画に取り入れていくことも、今後検討する必要がある。

令和5年度 教育研究員名簿

高等学校・地理歴史

学 校 名	職 名	氏 名
東京都立葛飾商業高等学校	主任教諭	◎川崎玉幸
東京都立第三商業高等学校	主任教諭	鈴木 恵
東京都立砂川高等学校	主任教諭	清水勇太
東京都立南平高等学校	主任教諭	酒匂 港
東京都立府中西高等学校	主任教諭	本城 恵太
東京都立福生高等学校	主任教諭	小栗 暁良

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課

指導主事 南濱 隆宏

令和5年度
教育研究員研究報告書
高等学校・地理歴史

令和6年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849